

環境保全活動に関する方針等

別紙1

自主的環境保全活動の取り組み状況

(事業所名) 三菱電機㈱ 高周波光デバイス製作所

三菱電機 北伊丹地区 環境方針

三菱電機北伊丹地区（以下：当地区）は半導体デバイスの開発・製造機能を有し、電気エネルギー、化学物質等を大量に使用しており環境に及ぼす影響は極めて大きい。

当地区は地球環境と地域社会に調和した事業活動を推進するために、環境方針を以下の通り定め、事業経営との共生を図りながら当地区の事業活動、製品及びサービスの全てに適用し、持続可能な発展を目指す循環型システムの追求に取り組むと共に、継続的な向上及び環境汚染等の予防を図る。

19 年度は「三菱電機グループ第9次環境計画」の目標達成に向け、「生産時」と「製品使用時」の双方で CO2 排出量の削減計画を確実に実行し、低炭素社会の実現に貢献する。

【重点項目】

1. 環境経営の推進

以下の省エネ・省資源化活動を推進する。

(1) 製品性能向上による製品使用時 CO2 削減

(2) 生産時 CO2 排出削減：19 年度排出量目標値 33,852t-CO2 以下

①エネルギー起源 CO2 排出量：31,507t-CO2 以下

②温室効果ガスの排出量 (SF6, HFC, PFC)：2,345t-CO2 以下

(3) 化学物質のイン/アウト管理を徹底し、排出を抑制する。

(4) リサイクル水の利用を継続し、水資源の有効利用に努める。

2. 環境コンプライアンスの徹底と環境不具合の撲滅

環境関連法規を十分に理解した活動を展開し、重大不具合発生ゼロを継続する。

3. 環境マインドの育成と CSR 視点による環境コミュニケーションの推進

社員やその家族に「生物多様性」に配慮する環境マインドを育成すると共に、地域社会と連携して社会貢献活動の輪を広げる。

4. 当地区の従業員に環境方針を周知すると共に、環境教育・広報活動等により、更なる環境意識の向上と環境人材の育成を図る。

2019年 4月 1日 竹見 政義

北伊丹地区環境総括責任者：高周波光デバイス製作所所長

環境保全活動に関する方針等
別紙 2

環境保全活動に関する組織体制

三菱電機 (株) 本部・本社部門 半導体事業本部

北伊丹地区環境総括責任者
(三菱電機 (株) 高周波光デバイス製作所長)

北伊丹地区環境会議
メンバー
北伊丹地区環境総括責任者
部門長
関係会社 所長
地区環境推進責任者
(製造管理部長)
地区環境監査責任者
(品質保証部長)
幹 事
地区環境推進事務局リーダー

北伊丹地区環境内部監査チーム
地区環境監査責任者
(品質保証部長)

北伊丹地区環境推進責任者
(製造管理部長)

北伊丹地区環境推進事務局
リーダー
環境・インフラ管理課長

北伊丹地区環境推進委員会
委員長：地区環境推進責任者
委 員：部門環境推進委員
幹 事：地区環境推進事務局リーダー

三菱電機 (株) 北伊丹地区 各部門

環境保全対策の実施状況

別紙 3

項 目	平成30年度の取組結果	項 目	平成31年度(令和元年)の取組計画
生産時CO2 排出削減	1. エネルギー起源CO2排出 削減 18年度排出量総量 目標 33,818t-CO2以下 18年度排出量 実績 27,821t-CO2 2. GHG排出 削減 (1) 温室効果ガス排出総量削減 排出総量目標 2,400.0t-CO2eq.以下 排出総量実績 853.3t-CO2eq (2) プロセスガス排出量抑制 計画: 移設に伴う除害装置の更新 実績: U棟除害装置の立上げが完了し排出量を削減。 (3) 業務用 冷凍空調機器の適正管理 簡易点検: 827台 定期点検: 17台 期限内に実施済	生産時CO2 排出削減	1. エネルギー起源CO2排出削減 排出量目標 31,507t-CO2以下を計画 2. GHG排出削減 (1) 温室効果ガス排出総量 排出量目標 2,345t-CO2eq.以下を計画 (2) プロセスガス排出量抑制 ① プロセスガスの適正処理継続 ② プロセスガス購入量の把握 (3) 業務用 冷凍空調機器の適正管理
事業所における資源 有効活用の促進	1. 水資源の有効活用 取水量生産高原単位: 141.4% (生産高減により原単位が増加した。) 2. 製品の小型・軽量化による資源投入量の削減 (1) 減量化製品の出荷台数実績: 288k台 (2) 軽量化製品の開発完了 量産移行開始	事業所における資源 有効活用の促進	1. 水の維持管理活動 2. 製品の小型・軽量化による資源投入量の削減
自然共生社会実現に 向けた取り組み	1. みつびしでんき野外教室・里山保全活動の継続開催 (1) セミの羽化観察会、(2) やしろの森公園の保全活動 2. 事業所の生物多様性保全の計画立案と保全活動の継続 (1) シンボル緑地計画検討継続(猪名の笹原モデル園)	自然共生社会実現に 向けた取り組み	1. みつびしでんき野外教室・里山保全活動の継続開催 2. 事業所の生物多様性保全の計画立案と保全活動の継続
環境経営基盤の強化	1. 近隣との環境コミュニケーションの拡充 瑞々池公園の桜を育てる会 実施 → 達成 2. グリーン認定制度による環境負荷削減 → 達成 3. ロス削減 → 達成	環境経営基盤の強化	1. 近隣とのコミュニケーション活動の推進 2. グリーン認定制度による環境負荷削減 3. 会議資料の電子化による紙資料の削減